IS ～闇とかを操りし者～

黒翼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ＩＳ　～闇とかを操りし者～

【Ｎコード】
Ｎ５４６８ＢＡ

【作者名】
黒翼

【あらすじ】
転生し、力を得た男はＩＳの世界で自由気ままに生きていく。
※また思いつきと止まらない想像から始めました。
原作って何って感じですが、まあやっていきます。
ちなみに、他作品もあるので更新は不定期です。

何か転生することになりました（前書き）

まーたやってしまった。
わかっているんだが、一度思いつくとなかなか止まらないんですよね……。
ま、ということで～闇とかを操りし者～、始めます。

何か転生することになりました

まず初めに言っておこう。

「ここはどこだ？」

目の前は、というよりここ全体が真っ白な空間で何も無い。
方向すらもわからない。

「俺、どうしてここにいるんだっけ？」

確か俺は学校の帰り道にぶーらぶら歩いていて、それから……

「それから……どうだっけ？」

「貴方は死にました」

「ふーん、死んだんだ……って死んだ！？」

声を発したのは、俺から言わせてもらうと美女であった。
リアルでこんな美女っているんだね。

「あら、嬉しいことを言ってくれますね」

「いや、事実ですしって、何人の心読んでるんですか」

「神様に人の心を読むことはデフォルトですよ？」

デフォルトなんだ……。

「ま、いっか。　そういえば、なんで俺ここにいるんですか？　死んだってどういうことですか？」

「ごめんなさい！」

いきなり頭を下げられた。

何で？

「はい？　俺、貴女に謝られるようなことされてませんよ？　貴女とは今初めて会ったんですし」

俺には貴女が頭を下げる理由がわからない。

「えっと、非常に申し上げにくいのですが、私の不手際で貴方を間違えて殺してしまったんです」

「そういうことなんですか。　で、どうやって死んだんですか？」

「……」

「……あの、どうかしたんですか？」

急に黙り込んだりして、どうしたんだ？

俺を見てびっくりしているように感じるし。

「あ、いえ、怒らないのかな、と思いまして」

「確かに死んじゃったのは嫌ですけど、もう過ぎたことですし、仕方がありませんよ。　それよりも、どうやって死んだのかが気にな

ります。　俺の死んだ死因ってなんなんですか？」

「変わってますね。　あ、貴方の死因ですね。　心臓麻痺です」

「どこのデスノートですか、それ……」

死因が心臓麻痺って、某死神の落としたノートじゃないですか。

「で、俺はどうなるんですか？　地獄にでも行くんですか？」

「……どうして地獄だと思ったんです？　普通天国って言うと思うんですけど……」

「いやだって、天国にいけるようなことした覚えないですし、むしろ地獄に行った方が妥当だと思うんですけど」

「……貴方、どれだけネガティブ思考なんですか……。　貴方、悪いことしてないじゃないですか」

「え、そうですか？」

人からかったりしてましたよ？

「貴方がそう思っていても、受けた人たちは貴方のコミュニケーションだと受け取っていたり、貴方の個性だと感じていたり、とても地獄にいけるようなことじゃないんですけど」

「そうだったんですか？　知らなかったな」

あ、そういえば誰も抵抗するけど嫌そうな顔はしてなかったっけ。

俺、いい友達持ってたな。

「じゃあどうなるんですか？　地獄じゃないとなると、天国ですか？　それとも輪廻に流されるんですか？」

「いえ、貴方には転生してもらいます」

転生？
輪廻転生じゃなくて、転生？

「はい、転生です。　そもそも貴方は私の不手際で死んでしまったので、記憶を持ったまま、別の世界に転生させることになっているんです」

これか。
これが俗に言うテンプレ転生か。

「まあそんな感じです」

「俺が実際にそうなるなんて思っても見なかったな」

そもそも神って存在すらあまり信じてなかったしな。
まあ、その神様が目の前にいるんだけど。

「で、俺はどうすればいいんだ？」

いきなり転生してくださいなんて言われても、どうすりゃいいかなんてわかんねえぞ。

「あ、その前に、貴方が行く世界を教えておきますね」

へえ、俺でもわかるんだ。

「貴方が行ってもらうのは、『ＩＳ』と呼ばれる世界です」

「ＩＳ？　なんだそら」

どっかで聞いたことのあるような気がするんだが、思いだせん。

「知らないんですか？　貴方の世界ではそれなりの知名度はあると思うんですけど……」

「あ、これってアニメかなんかなのね。　どっかで聞いたことがあると思ったら、そういうことか」

「まあ、貴方にはその『ＩＳ』という世界に転生してもらいます」

「んじゃ、転生させるならよろしく」

「あ、まだですよ。　転生させるにおいて、貴方には私の方から能力をあげることになっているんです。　貴方の世界の漫画やラノベに出てくるものでも構いませんよ？」

確かにこれ使ってみたいなーとかあるけど、考えると長いし。

「ということで、貴方が適当に決めてください。　俺、そういうのあまり考えないんで、貴方に任せた方が早いです」

「いいんですか？　本当に滅茶苦茶にしますよ？」

「別に構いませんよ。　また死ぬことにならなければそれで」
せっかくできた友好関係を崩したくは無いしな。
もしそんなことになったら、親や友達が悲しむし。
「わかりました。　では、私が勝手に付けさせてもらいますね。
その力の使い方は転生させたら貴方の記憶に入れておきますから、
悩まずに済みますよ」
「あ、わざわざありがとうございます」
この神様、いい奴だな。
「いえいえ。　元はといえば、私が間違えて貴方を殺さなければこうはならなかったんですし、当然ですよ」
微笑みながら言ってくれた。
うん、美人だからとても綺麗だ。
元が良いとどんな雑作でも綺麗に感じるな。
「〜！　ささ、貴方を転生させますよ！／／／」
あ、急に顔が赤くなった。
神様でも照れたりするんだ。
可愛いな、こんちくしょう。
「……あ、貴方、私を口説いているんですか？」
「え？　そんなことないですけど……。　純粋にそう思っただけなんですけど……」

この神様が美人だってことは事実ですし。
可愛いことは正義なんですよ。

「……ときめいてしまったじゃない」

「何か言いました？」

「そ、そんなことないですよ！」

「それならいいんですけど」

「あ、転生する際に注意事項が一つ。　赤ちゃんからになりますから、そのつもりで」

「……え？」

赤ちゃんスタート？
俺に羞恥プレイを味わえと？

「では、新たな人生を満喫してくださいね～！」

「え？　あ、ちょっ！」

俺の足元に大きな穴が開き、それに飲み込まれた。
……落ちるなら落ちるって言ってください。
心臓に悪いです。
もしかして、意趣返しですか？

「おぎゃあああああっ（そしてやっぱりこうなるのね……）」

それと神様……赤ちゃんからなんて俺の精神が壊れそうだよ……。

何か転生することになりました（後書き）

他作品もよければ見てください。
どれもいい出来とはいえませんが、感想とかくれるとテンションがあがります。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5468ba/

IS 〜闇とかを操りし者〜

2012年1月14日23時48分発行